

愛労連第 66 回定期大会議長あいさつ

愛労連 議長 西尾美沙子

愛労連 66 回定期大会にご参加されたみなさんおはようございます。愛労連幹事会を代表しましてご挨拶申し上げます。日ごろはお仕事に加え組合活動に奮闘されておられ心より敬意を申し上げます。来賓の皆様には日頃よりご支援を賜りまして感謝申し上げます。今大会には愛知県大村秀章県知事からのメッセージをはじめ、全国一律最低賃金制を求める国会請願署名、新しいのち署名の紹介議員になっていたいただいた野党国会議員から、そして自民党議員からもメッセージを寄せていただきました。愛労連運動の広範な運動を物語っています。

いまコロナ禍に加え物価高騰の波が生活を足下から揺るがせており、愛労連は労働者の賃金労働条件の改善と国民のいのちを守ることを両輪に運動をすすめてきました。

昨年を少し振り返ってみます。7月に入ると感染が急拡大します。これが「第5波」で、8月20日には全国で2万5995人の感染爆発を起こす中、後手後手・無為無策のコロナ対応に終始してきた菅首相が辞任しました。10月総選挙を目前に控える9月5日、全労連の呼びかける医療・介護・保健所の削減やめて！いのちまもる緊急行動に立ち上がりました。全国では36都道府県119地方で声を上げ、愛知県下では8カ所150人で、いのちを守るために政治転換が必要だと一斉に声を上げました。同日にツイッターデモで訴え6万件のツイートがありトレンド入りしました。9月2日には学校休業等への対応と看護休暇に関する要請を愛知労働局、愛知県、名古屋市に、建交労、医労連、福保労、自治労連、愛高教、愛教労と連名で行いました。小学校休業対策助成金が3月で打ち切られてしまい、子どもの世話をするために休みが保障されず雇い止めや退職強要につながりかねないとアピールし、保護者や保育小学校関係者115人の声を届け、記者会見も行いました。

私達の行動は、いのちまもる緊急行動は、「ケア労働者の処遇改善事業」として新岸田首相の目玉政策となり、月額看護師4000円、保育士/介護職9000円の賃上げ施策へとつながりました。小学校休業対策助成金については制度の延長や個人制度への拡充につながりました。

愛労連は、困った声を可視化し、仲間との共同を広げ、「声をあげれば変えられる」実践を作り出してきました。

ケア労働者の賃上げ制度は、「一桁足りない」、「対象者が限定」という制度の欠陥と、賃上げ申請を行う事業者や自治体は分断を生む、制度の不備を理由に実施にいたっていない仲間もたくさんいます。愛労連は自治労連・医労連・福保労/建交労・生協労連の仲間と「エッセンシャルワーカープロジェクトチーム」を発足させ、生協や建交労ではベアを引き出すなど、処遇改善事業での賃上げ・手当改善につなげ22春闘を牽引してきました。引く続き10月からの本実施に向けてPTで戦術を強めて闘っていきます。これらの要求と講堂は、愛労連全体の団結にもつながり、組合員拡大では、昨年を300名以上超える3746人の仲間を増やし、1単産・6地域組織が増勢で大会を迎えることができました。新規結成組合は医労連・福保労・尾東労連で組合のうぶごえをあげました。ここにみなさんと喜び合いたいと思います。しかし残念ながら増勢にすることはできませんでした。コロナ禍、物価高だからこそ、職場・地域の労働者の困った声に寄り添い対話し、要求をまとめ、職場に改善を求めていく、制度政策を変えていくたたかいが大切です。愛労連年間5千人以上の仲間を迎え、5万人早期回復へ、奮闘しましょう。

いま、世界的な物価高騰のなかで、欧米では、最賃を引き上げる国が相次ぎ円換算でドイツはおよそ1600円に、イギリスはおよそ1500円に引きあげています。日本でもすみやかに最賃を大幅にあげ、暮らしを支えることが求められています。参院選では自民公明などほとんどの政党が最賃の引き上げを公約しました。自民党は3年掛けて1000円にするなど昨年3%28円を下回る後ろ向きな姿勢でした。最賃1500円以上を政策にかかげた立憲・共産・れいわ・社民の野党全体は残念な結果になりましたが、最賃1500円以上引き上げを求める切実な声は、世界だけでなく、私たちの職場・地域で広がってきています。最低賃金審議会の山場です。最賃1500円以上をめざし、今年1000円の実現を何としても勝ち取っていきたいです。

物価高騰の原因は安倍政権以来の金融緩和による異常円安があり大幅賃上げで暮らしを守り、労働者を守り、中小企業を守り運動の共同を大きく広げていくこと、消費税5%への引き下げ、年金引き下げでなく引き上げ、75歳以上の医療費2倍化阻止、生活保護基準の引き上げなど社会保障運動の改善もまったなしです。

安部元首相の国葬が9月27日に決定しましたが、「政治利用」であり、思想信条の自由を定めた憲法19条違反です。民主主義国家をして独裁に突き進むことに、1人ひとりの声を大切に作る労働組合として断じて認めるわけにはいきません。森友・加計問題、「桜を見る会」の税金の私物化の疑惑も解明されていません。

格差と貧困が広がり、非正規労働者が増え、日本の労働者の賃金は四半世紀上がらないどころか減少しています。いのちと暮らしを豊かにすることにこそ税金を使えの声を広げていきましょう。

そして9月11日投開票で行われる沖縄県知事選挙は米軍基地からの開放を求め真に平和を求める闘いです。玉城デニーさんの再選勝利へ全力を上げます。2月には愛知県知事選挙が行われます。看護師・保健師、保育士、教員増員、最賃引きあげの中小企業支援策、教育の無償化などなど、私たちの要求を実現するためのチャンスです。がんばっていきましょう。

経団連のシンクタンクが「中間層復活に向けた経済財政運営の大転換」という提言では、公務部門での直接雇用の必要性、非正規公務員の正規化、人勤制度を「公務員の給与は民間に合わせる」という従来の発送から「公務員を含めた公共部門の雇用者が豊かな生活を送るために必要な給与水準をめざす」という考え方に移らなければならないと述べています。まさに私たちが訴えてきたことです。物価高騰から賃上げを！の声を一層強めていきましょう。

愛労連は1年間大奮闘してきました。この姿を職場・地域で可視化することが大切です。がんばって発行している愛労連ニュース・愛労連新聞を対話し広げてください。SNSも大いに活用していきたいと思います。

最後に参院選で改憲勢力が3分の2を占めました。世論調査では改憲慎重が圧倒的多数です。改憲の大宣伝に負けない取り組みを職場・地域で行い、憲法を絵に描いた餅にしない、食べられる餅にするために不断の努力を続けていくことを呼びかけてあいさつとします。みなさんの発言で議案を一層補強していただきたいと思います。ありがとうございました。

以上